

開催地名：三重県鳥羽市	
開催日時	令和4年10月29日（土） 13：30 ～ 15：00
開催場所	鳥羽市民体育館（オンラインによる講演）
語り部	伊藤 正治 （岩手県大槌町）
参加者	自治体、自主防災組織・自治会等 50名
開催経緯	<p>当市は、南海トラフ地震で震度7の地震動及び甚大な津波被害が危惧されており、津波被害等による集落の孤立も想定されている。そのため、公的な援助に時間を要することが想定されることから、地域による自助・共助は必要不可欠であると考え。また、当市は大規模災害への対応経験がほとんどないことから、職員や市民への災害の体験談や教訓が蓄積されていない現状がある。そのため、防災訓練や広報紙による防災コラムの掲載、出前講座による啓発活動は行っているものの、いかにして職員や市民の防災意識を維持し続けていくのかということも課題となっている。</p>
内容	<p>（1）大槌町の被害について</p> <p>大槌町はリアス式である三陸海岸のほぼ中央に位置し、古くから豊かな海の資源に恵まれ、水産業で生計を立ててきた歴史がある。震災前の人口は15,994人であったが、現在の人口は11,018人となっており、30パーセント以上の約5,000人が減ってしまった。</p> <p>平成23年3月11日の午後2時46分に発生した地震により、大槌町では津波が発生し、死者822人、行方不明者413人、関連死51人の合計1,286人の犠牲者がでた。これは人口の8パーセントに達するものであり、自治体機能の著しい低下、生活基盤の喪失、地域コミュニティの分散、社会関係資本の喪失等々、町が消滅してしまったような大打撃を受けた。平地は町の面積の2パーセントに過ぎないが、そこに町の人口の8割の人々が住んでいたことも被害を大きくした要因であった。</p> <p>この地震により、小学生が3名、中学生が2名、高校生が6名亡くなった。震災後に転居を余儀なくされた子供も多く、児童生徒数は震災前の1,262人から717人と、500人以上減ってしまった。町内の小中学校7校のうち、5校がこの震災で使用できなくなり、新年度用の教科書をはじめとする教材もすべて使えなくなってしまい、学びの場を完全に喪失してしまった。卒業式間近の児童、生徒、父兄にはとても残念な思いをさせたことと思う。</p> <p>被害を大きくしてしまった要因は、外部からの強烈な刺激に対し「きっと大丈夫だろう」と思うことで落ち着こうとする「正常性バイアス」、自分以外に大勢の人がいるとき、周りに合わせてしまう「同調性バイアス」、経験していないものに対してなかなかリアリティを持つことができない「経験バイアス」の3つである。津波の常襲地帯であり、地震と津波の恐ろしさをよく認識していながら、このような被害を招いてしまったのだ。</p> <p>（2）避難所での問題点</p> <p>津波による被害から家を失い、まさに命からがら逃げこんだ避難者がほとんどであった。避難者は思い思いのところに場所をとり、遅れてきた避難者の居場所がなくなる。また、土足</p>

	<p>で上がり込んだり、汚れたままの服装の着替えもしにくい環境だったため、避難所内を清潔に保つのが難しく、衛生環境の悪化や感染症発生の恐れが常にあった。さらには、身体が不自由な人や治療を要する疾病を抱えた人等、介護・介助が必要な人も一緒に滞在したため、細やかな対応も必要になり、運営は多難を極めた。避難所の生活は「共助」そのものである。その基本は相互理解であり、多様性の尊重である。少しのわがままと少しの我慢が大事である。そして刻々と変わる状況に対応できるようにするため、考えられる備えをしておくことが大事である。備えて備え過ぎるということはない。学校や町内会（自治会）との連携や備蓄物資の確保、そして実効性のある避難訓練の実施を是非実行していただきたい。</p> <p>（３）語り継ぐこと</p> <p>人は、忘れる動物である。「風化」は出来事が終息した瞬間から始まるといっても過言ではない。今年、小学校の４年生と５年生の一部は震災津波後に生まれた子供たちである。100年後には直接体験した人は誰もいなくなる。そうしたとき、防災教育の重要な要素は「語り継ぐ」ことである。語り継ぐことが次の災害への備えを促し、災害に強い社会を構築することにつながる。語り継いでいくことで、災害に対する地域文化・伝統が形成される。</p> <p>次の災害で少しでも多くの命を救うために、自分の住む地域のハザードマップ、防災マップを日常生活の中で意識することが大事であると思う。さらには、想定外の事象に対しても対応できるよう、日常生活で準備をすることが必要である。そして、災害に弱い人を助けるルール作りにも取り組んでいただきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
<p>開催地より</p>	<p>東日本大震災を経験された語り部から、津波の恐ろしさや避難所生活についての具体的なお話を聞くことができ、防災に対するイメージを強く認識することができた。今日のお話を、行政、町内会・自治会、学校などのそれぞれの組織による連携した実効性のある訓練の実施に繋げていきたい。また、防災意識を高く保つための継続的な啓発の実施にも取り組んでいきたいと思う。</p>